

善隣

No.546 通巻813

2024年（令和6年）4月1日発行（毎月1日発行）

2024

4



一般社団法人 国際善隣協会

善 隣

目 次

2024年 4 月号

公開講演会記録

ゴジラと満洲

一日中関係のなかからゴジラをとらえなおす 山口直樹 2

留用についての考察と体験 新宅久夫 12

令和六年「新年に抱いた漠然とした不安」 河邑厚德 19

会員彼是

IT 難民のつぶやき 福島靖男 22

陶々俳壇

..... 馬場由紀子 25

中国ウォッチング

..... 編・訳 上松玲子 26

協会通信・同好会だより 28

2024年 4 月の行事予定 29

善 隣 第546号 通巻813号

2024（令和 6）年 4 月 1 日発行

発行所 〒105-0004 東京都港区新橋 1-5-5

一般社団法人 国際善隣協会

TEL 03（3573）3051

FAX 03（3573）1783

発行人 藤沼弘一

編 集 原田克子

編集協力 朝 浩之、山谷悦子

印刷所 旬ゆにおんプレス

TEL 048-834-1201

定価 一部400円 年額4,800円

振替 00120-0-145956

国際標準逐次刊行物 ISSN 0386-0345

©禁無断転載

みんなの写真館

（姜晋如、原田克子）

——。——。——。——

当協会は、中国ならびに近隣諸国との相互理解を深め、友好親善・交流を推進しています。

一般社団法人 国際善隣協会

公開講演会記録

ゴジラと満洲——日中関係の なかからゴジラをとらえなおす

北京日本学術交流会責任者 山口直樹（会員）



はじめに

ゴジラの誕生から70年を迎えようとしている。その70周年を記念した映画、『ゴジラー1.0』^{マイナスワン}が、日本でもアメリカでもイギリスでも大ヒットしている。ゴジラは、ただ一過性の流行に終わることはなかった。

『シン・ゴジラ』（2016）にしても『ゴジラー1.0』（2023）にせよ新奇な怪獣を次々に登場させるのではなく、ゴジラと人類の攻防に焦点を絞ったことが人間ドラマと特撮部分との有機的な結合をもたらし、映画を完成度

の高いものになっている。怪獣映画は、ただ新奇な怪獣を出せばよいというものではないことがわかる事例である。

1990年代の半ば、本格的なゴジラ研究は、まだ始まったばかりだった。この頃の先行研究は、佐藤健志『ゴジラとヤマトとぼくらの民主主義』（文藝春秋、1992）と高橋敏夫『ゴジラが来る夜に』（廣済堂出版、1993）ぐらいしかなかった。しかし、その後30年でゴジラ研究は大きく進展した。大学の紀要や書籍などにおびただしいゴジラ論が書かれており、ゴジラ研究ルネサンスといった状況を迎えている。またゴジラや円谷英二を博士論文

のテーマにする若手研究者もあらわれてきている。

そのような状況のなかで本稿の意義はどこにあるのか。

まず、現代のゴジラ研究には日中関係のなかからゴジラを考察しようとしたものが、ほとんどない。日本語文献でゴジラの中国語表記「哥斯拉」に言及しているものは、私の知る限り、ましてこ・ひでのり『ゴジラ論ノート——怪獣の知識社会学』（三元社、2015）ぐらいしかない。これはどうしたことだろうか。

そこで本稿では北京に長期滞在した者として日中関係のなかからゴジラを

とらえなおすことを試みた。まず、第一に日米関係のなかだけでなく日中関係のなかでゴジラをとらえることによってゴジラの意味がより十分に明瞭になることを主張したい。

第二に、筆者の専門とする科学史サイドからのゴジラ論もほとんど書かれてはいないことを考慮に入れ、植民地科学史をふくめた科学史サイドからのゴジラ論を提出したいと考えた。

1. 現代中国で知られていなかったゴジラ

1-1. ゴジラとは何か

ゴジラとは、人間が近代科学によって自然を支配し、完全に制御できたと思った瞬間に、自然が、人間の科学文明に反逆を開始するという物語にかかわるなにかである。

また、ゴジラは、日本のマグロ漁船、第五福竜丸がアメリカの水爆実験によって被曝したという事実に基づいて着想された現代の怪獣である。

そのゴジラが、現代中国で知られて

いないことを知ったのは、2004年北京大學でその日本語学科の大学生から「ゴジラって何ですか」と聞かれたときであった。彼らは「ウルトラマン」や「鉄腕アトム」や「ドラえもん」や「名探偵コナン」はよく知っていたが、ゴジラは知らなかったのである。ちなみに台湾や韓国の欧米の留学生たちは、ゴジラをよく知っていた。

だが、中国の学生だけは、ゴジラや第五福竜丸を全く知らないということがわかってきたのである。このことへの疑問が、本稿の出発点になっている。

1-2. “北京ゴジラ行脚”の誕生

2004年、北京大學日本語学科の先生から「山口さん、日本文化紹介を北京大学生にしてくれませんか」と頼まれたことがある。

そこで『ゴジラ』（1954）の映像を交えて北京大学生にゴジラ講義を行うことにした。ここから北京の大学に出前授業を行う“北京ゴジラ行脚”が始まった。

北京大學をはじめとした中央財經大

学、中国伝媒大学、北京林業大学、中国人民大学など北京の大学の日本語学科や民間日本語学校の学生を対象に無償でゴジラ出前授業を行い、学生に感想を書いてもらうという試みである。

中国でゴジラが知られるようになったのはごく最近のことである。特に2020年代ハリウッド版『ゴジラvsキング』（2021）が中国でヒットし、知名度は一気に上がった。

ただ、このためゴジラをアメリカのものだと考えている中国人も少なくない。

2. 東宝という映画会社の誕生

2-1. P・C・L（写真化学研究所）から東宝映画株式会社へ

まず、ゴジラ誕生の基礎となった東宝という映画会社について簡単に見てみることにしよう。

東宝という映画会社は、まずP・C・L（写真化学研究所）を、源流として成立した。P・C・Lは、1931年に丸ビルに発足し、その後、成城に移転する。この写真化学研究所は、理化

学研究所に勤務していた植村泰二と同じく理化学研究所に在籍しながら松竹キネマで現像部長をつとめた増谷隣らにより設立されたものである。植村泰二は、理化学研究所には、写真乳剤の研究者として勤務していた。この成城への移転は、自宅が駒込にあった植村泰二が、娘の泰子が成城小学校（1930年入学）に通っており、自宅からの通学が大変だったことから、1932年に仕事場のP・C・Lが成城に移転される。その後、関連四社を併合して1937年から東宝映画株式会社と



北京ゴジラ行脚でゴジラ講義のあと北京の民間日本語学校いらっしやい日本語学校で中国人青年たちと（2014年）

なる。植村泰二は、研究者であるとともに経営者でもあった。東宝とは、東京宝塚の略称である。

2.2. 東宝と中国と軍

P・C・L（写真化学研究所）という名前が示す如く、写真化学という基礎的な学問の発展がなければ、娯楽産業としての映画産業の発展もなかったと言える。ここには後にソニーを起業することになる井深大氏もいた。写真化学と関係の深い特撮技術では、他の映画会社に対して東宝が、頭一つ抜きんできた存在だった。と同時に東宝は、当時、軍と最も近い映画会社であった。だから日中戦争のはじまりの1937年に活動を開始した東宝と中国のかかわりには深いものがある。

1937年、東宝は、ドイツと合作で『新しき土』という日独合作映画を製作している。

「新しき土」とは端的に言って「満洲国」のことであった。この映画の特撮を担当したのは、のちに『ゴジラ』（1954）で特撮を担当することに

なる円谷英二であった。

そして東宝のある成城は、日本のビバリーヒルズといわれる日本初の学園都市にして映画の街となった。現在は、多数の文化人、芸能人、映画人が住む高級住宅地になっている。

3. 戦争の記憶としての「ゴジラ」

「ゴジラ映画から消される中国」

3-1. 複合的な戦争の記憶

川本三郎は、『今ひとたびの戦後日本映画』（中公文庫、2000）の「ゴジラはなぜ「暗い」のか」において以下のように述べた。

「ゴジラは「戦災映画」、「戦禍映画」である以上に、第二次世界大戦で死んでいった死者、とりわけ海で死んでいった兵士たちへの鎮魂歌ではないのかと面白い。海に消えていった“ゴジラは、戦没兵士たちの象徴ではないのか”（85頁）。

ゴジラが、「戦争の記憶」である以上、この解釈がスタンダードなものになっているのには根拠があるだろう。

たださらなる問題は、かつての日本の戦争が、対アメリカの戦争であるとともに対中国、正確に言えば、対中華民國の戦争という複合的な性格を持つ戦争だったということにある。

3-2. ゴジラ映画から消された中国表象

猪俣賢治は、「南洋史観とゴジラ映画史―皇国日本の幻想地理学と福永武彦のインファント島」(新潟大学人文学部紀要『人文科学研究』、2008)において「ゴジラ映画全28作と『モスラ』など、戦後の特撮怪獣映画には、「南の島」は数多く登場するのだが、その一方で(日本以外の)「東洋」あるいは「中国」が殆ど描かれていない、ということに気付く」(99頁)という指摘を行っている。これは重要な指摘であろう。ここでは『ゴジラ』(1954)における台本の人物設定の変化を例としてみてみる。

『ゴジラ』(1954)における台本の変化は以下のようになっている。

検討用台本「G作品」、香山滋↓準備稿「G作品」、村田武雄、本多猪四郎↓最終決定稿「ゴジラ」村田武雄、本多猪四郎↓完成作品「ゴジラ」監督・本多猪四郎、特撮監督・円谷英二。

では、検討用台本G作品(香山滋)における芹沢大助の人物設定はどうなっているだろうか。

「年齢40歳、元北京大学教授、薬物化学者で山根恭平とは親交が深い。嘗て、大学の休暇を利用して熱河省へ山根が化石採掘に行ったとき、助手として同伴。狼におそわれた危い間際を山根恭平に救われたので山根を命の恩人と思っている。その際、片目を失い、顔半面ひどい傷のヒツリで醜い。妻は数年前病死、ひそかに恵美子を慕っているがあきらめている。恵美子もそれはうすうす知っている。「今度は空中酸素破壊剤を完成させてみせる」という」人物設定になっている。

これが「G作品」準備稿、村田武雄、本多猪四郎になるとどう変化するか。

「年齢30歳、薬物科学者。山根博士に愛され、密かに恵美子を思っているが、戦争で片目を失い顔面に鋭い傷をおっている」となり元北京大学教授と

いう設定は消えている。

検討用台本G作品(香山滋)の山根恭平の人物設定は以下のようなものだった。

「年齢55歳。元北京大学教授。東京湾にほど近い高台に居を構える。あまり豊かではない。研究のことになると気狂いになるほどの偏執狂。娘の恵美子には、世間並みの父親」。それが「G作品」準備稿、村田武雄、本多猪四郎になると以下のように変化する。

「ゴジラが水爆によって生まれたことを公表することで世界が混乱することを恐れる。神経痛の持病のため大戸島に調査にはいかず。年齢55歳。古生物学の権威」。この後、神経痛で大戸島の調査に参加しないという記述はなくなる。「変わり者の科学者」から「庶民的な科学者」に性格を変えている。そしてここでも元北京大学教授という設定は消えている。

つまり、芹沢大助と山根恭平という科学者の設定から元北京大学教授という設定が消え、中国との関係が消し去られたということがわかる。原作の香山

滋が、古生物学者の山根恭平を元北京大学教授としたのは、北京原人の化石の発見を北京大学の教授が行っていたことが念頭にあっただろうし、化学者の芹沢大助を元北京大学の教授としたのは、芹沢と731部隊とのかかわりを念頭に置いていた可能性があるだろう（以上の記述は『初代ゴジラ研究読本』〔洋泉社、2014〕166～167頁を参照した）。

4. ゴジラと植民地科学史

4-1. 「満洲国」における恐竜研究

1945年以前における日本人地質古生物学者の恐竜体験には、1934年、樺太の川上炭坑地内から発見された「日本竜」が有名だが、これに続くものとして「満洲国」の恐竜はあった。日本竜の研究にたずさわった北海道帝国大学理学部地質学鉱物学教室創設教授・長尾巧は、東北帝国大学理学部地質学古生物学教室創設教授・矢部長克の門下であり、「満洲国」の恐竜研究も矢部一門の遠藤隆次、野田光雄、

鹿間時夫らによって進められている。満洲国立中央博物館の研究などで知られる犬塚康博は「ゴジラ起源考」『千葉大学人文社会科学』（第33号、2016）という論稿のなかで「1930年代から1940年代前半は、日本の地質学、古生物学における恐竜研究の高度成長期だったのである」（46頁）と指摘している。確かにこの時期は、地質古生物学方面で大きな発見が、相次いでいたと言えそうである。その一つが三葉虫の発見という出来事であった。

4-2. 三葉虫との関連で浮かび上がる古生物学者

遠藤隆次と「満洲国」との関連を示してあまりあるのが三葉虫である。1954年以前、1930年代および1940年代における日本人地質古生物学者で、古生代研究、三葉虫研究の第一人者のひとりに遠藤隆次がいた。三葉虫は、『ゴジラ』（1954）においても英語名の「トリロバイト」として登場している。

1892年生まれの遠藤は、192

4年に東北帝国大学理学部地質学古生物学教室を卒業すると、「満洲」にわたって南満洲鉄道株式会社（以下、満鉄）設立の撫順中学校教諭となり、後20余年におよぶ満洲・中国生活を開始する。1927年に満洲教育専門学校教授、1929年4月から1931年6月までのスミソニアン・インスティテュション留学をはさんで、1933年には満鉄教育研究所教授となる。そして1939年、満洲国立中央博物館（新京）学芸員となる。

遠藤は「満洲国」終焉まで同館自然科学部長の地位にあり、敗戦後は1946年8月から1948年6月まで留用されて奉天の東北大学教授をつとめたのち、引き揚げている。

遠藤の満洲古生代研究は、満鉄に所属した時代に集中して行われた。引き揚げ後は、1954年から埼玉大学学長として学術行政にかかわった。

『ゴジラ』（1954）の山根博士は、古生物学者、遠藤隆次をモデルにしていた可能性もある。原作の探偵作家、香山滋は、地質学、古生物学に詳しい。

おそらく遠藤隆次のことは知っていただろう。『ゴジラ』における三葉虫や恐竜の化石は、日本の満洲植民地科学研究の「成果」の一つとみなすことも不可能ではないだろう。このように「満洲国」における恐竜研究は、東北帝国大学出身の古生物学者らによって行われていたということがわかる。

4-4. なぜゴジラ映画から中国表象が消し去られたのか

なぜゴジラ映画には南洋諸島（ただし沖繩は除く）は多く出てくるのに中国が出てこないのか。

これまでの考察からわかることは、中国を登場させると植民地支配の過去や軍事的、地政学的な説明をしなければならなくなることや、戦後日本における（中国を対象とした）植民地主義の忘却という事態を反映しているということがあるであろう。

ゴジラが、日本海側からではなく太平洋側からあらわれるというのは、ゴジラ映画の基本的な約束事である。また『シン・ゴジラ』を除いてゴジラ映

画には、在日米軍は登場しない。

これも中国を意識した軍事的、地政学的配慮だとも考えられる。

そして現代中国においてゴジラ映画は、反核の理念を持つがゆえに民衆には、公開されずにきたと考えられる。

5. 現代中国における第五福竜丸の記憶の忘却

5-1. 「アメリカ帝国主義が、アジアの人民を被曝させた」と述べた周恩来
ゴジラとともに第五福竜丸も現代中国では、ほとんど知られていない。1954年に周恩来は、第五福竜丸の被曝に関して「アメリカ帝国主義が、アジアの人民を被曝させた」と批判したことがある。

周恩来は、このとき、中国人民は、日本に沸き起こった反米の世論と連帯すべきと考えた。多くの中国人は、その時点では第五福竜丸を認識していたが、その後、忘却されていくことになる。また第五福竜丸の被曝によって盛り上がった日本における反米の世論は、その後ま

もなくして沈静化していくことになる。それは、正力松太郎が主導した日本テレビ放送網や『読売新聞』を中心とした新聞（他の新聞もこのキャンペーンには便乗していた）による「夢のエネルギーとしての原子力の平和利用」キャンペーンが、功を奏したからであった。これは、「3・11」以降、日本の市民が常識としなければならないことである。

5-2. 第五福竜丸と「満洲国」のつながり

第五福竜丸が、日本において忘却の危機に曝されていたとき、それを救ったのは、「満洲国」からの引き揚げ者であった。

「満洲国」から引き揚げてきた武藤宏一氏が、1968年3月10日、『朝日新聞』の声欄に第五福竜丸を保存するべきだという投書を行い大きな反響を呼んだのである。この投書がなければ、第五福竜丸は、人々の記憶から消え、第五福竜丸記念展示館も存在しなかったかもしれない。なお「満洲国」建国は1932年3月1日であり、ちょ

うどその22年後に第五福竜丸はアメリカの水爆実験で被曝した。

この武藤氏は、40歳の若さで亡くなってしまう。満洲引き揚げも特権を持っていた政治家や官僚とは対極的な引き揚げであり、母一人、子一人の家庭で育ったという。

6. 『ゴジラ』（1954）スタッフや俳優陣と中国あるいは「満洲国」とのつながり

6-1. 本多猪四郎監督と中国

監督の本多猪四郎は、1911年に山形県朝日町の寺に生まれている。何度も戦争に日本兵士として動員され、約8年にわたって中国大陸にいた。「満洲国」にも行っていた。海外での知名度、評価が高いが、中国では知られていない。

『子どもの科学』を読んで育つような科学少年だった。『ゴジラ』（1954）の科学者、芹沢大助の科学観は、監督の本多猪四郎のものと見てよい。2010年代のゴジラ映画に芹沢猪四

郎という科学者が出てくるのは象徴的である。

監督デビューはおくれるが『ゴジラ』（1954）でその戦争経験が生きている。怪獣映画における逃げる民衆の姿は、本多監督が、中国大陸で目撃した中国民衆を反映していると考えることができる。

6-2. 俳優・宝田明と中国

宝田明氏は1934年に北朝鮮の新義州で生まれ、1歳で「満洲国」のハルピンに移り、そこで育つ。父・宝田清は、満鉄の技術者だった。ハルピンでソ連兵に撃たれたり、大変な苦勞をして新潟県村上市に引き揚げている。青年時代のあだ名は、「大陸」であった。

『ゴジラ』では戦後を代表するような快活な青年、尾形を演じている。役の上では山根博士の娘、山根恵美子（河内桃子）とは恋仲である。尾形は、ゴジラを殺すことを主張するが、試写会では、溶けていくゴジラを見て泣いたという。俳優・宝田明と人間・宝田



王子の宝田明事務所（2013年8月）

明は区別しなければならない。

俳優・宝田明は戦後の快活な青年尾形を演じ「ゴジラがあらわれた、ゴジラを殺せ」と映画のなかでは主張した。しかし、実際の人間・宝田明は、戦前の「満洲国」におけるソ連軍の占領経験や「満洲国」からの引き揚げ経験をひきずっており、「ゴジラがあらわれた、ゴジラを殺せ」ではなく「ゴジラがあらわれた、人間が変われ」と説く人である。

6-3. もつひろりの「ゴジラ同期生」

宝田明氏と同様のゴジラ同期生とし



第五福竜丸記念展示館近くの居酒屋で第五福竜丸元乗組員の太石又七氏と（2005年6月）

て、第五福竜丸元乗組員・太石又七氏をあげることができる。

1934年静岡焼津生まれで、20歳で第五福竜丸に乗りビキニ環礁のアメリカによる水爆実験で被曝し、周囲の妬みに耐えかねて東京の匿名性の高い街のなかに逃げ込んでいた。最初はマスコミ嫌いの人だったが、1980年代前半から社会的発言を始め、本を4、5冊も書き上げている。

ビキニ環礁で同じ「死の灰」を背負ったからかゴジラに対する共感はず尋常でないものがあった。私は、占領史家の笹本征男氏経由で太石氏と知り合いに

なった。

7. 本多怪獣映画の特徴

7-1. 思想性の高い怪獣映画『ゴジラ』（1954）

空想科学映画と呼ばれる映画や怪獣映画はたくさんあるが、本多作品にしか見られない大きな特徴が存在する。通常の怪獣映画では、怪獣と人間社会との間で物語が展開していく。ところが本多作品においては、怪獣と人間社会以外に科学者が登場し、必ずと言っていいほど重要な役割を演じているのだ。

私が、注目したいのは、『ゴジラ』

（1954）では、科学者による最終兵器オキシジェン・デストロイヤーの使用についての倫理をめぐる非常に思想性の高い物語になってしまったという点である。『ゴジラ』（1954）とは、科学者論を見ているものに思考させる物語でもあったのだ。

芹沢博士は最先端の科学者でありながら、現代科学に不信を抱き、みずからをふくめて人間というものを信用し

ていない、いわば闇の科学者である。

この芹沢博士の背負う闇はゴジラの闇とほぼ同質の闇である。ゴジラを葬り去ったのが、当時華々しく登場した「防衛隊」（のちの自衛隊）ではなく、このゴジラと同じ闇を背負う芹沢博士であったことは、非常に意味深いことであった。

7-2. 戦後民主主義の科学観と『ゴジラ』（1954）における科学観

佐藤健志は、『ゴジラとヤマトとぼくらの民主主義』（文藝春秋、1992）において『ゴジラ』（1954）を戦後民主主義の世界観で描かれた作品であるとし、その破綻を揶揄してみせる。だが、たとえば『ゴジラ』（1954）に登場する科学者、芹沢大助の科学観は、戦後民主主義の科学観とは大きく異なっている。

日本は「科学戦に敗れた」のであるから、さらなる科学振興が必要であると考え、科学技術の振興や開発にだけは、原子爆弾の開発もふくめて疑問が出されることはなかった。

科学技術については、政治的な立場を問わず、階級的な位置も問わず、その進歩について異を唱える者は、誰一人いないという状況が、戦後啓蒙期といわれる時代に生まれていた。

戦後民主主義の科学観とは、自然科学の研究を絶対的な善と見て「何をおいても科学研究は大切」と唱える没論理的な科学研究至上主義からはじまり、自然科学の進歩と社会の進歩と同一視するそのような科学観であり、科学性善説とでも言えるものであった。

しかし、たとえば、山本義隆は「ランダウをめぐる」(『物理学者ランダウ・スターリン体制への叛逆』みすず書房、2004)において「科学研究の営みが軍事を含む大きな政治の枠内におかれている状況下では、あるいは生命科学が人間の尊厳を損ないかねないところまできている現在、研究活動にはきわめて厳格な倫理が要求されているのであり、研究をすすめる業績をあげることで唯一絶対の価値では最早ない。

研究者が流れに抗して真に主体性を

回復できるとするならば、それは科学のおかれている状況を批判的に捉えなおし、場合によっては実際に研究を拒否する覚悟を持つことによってではないのである」(312頁)と述べているが、『ゴジラ』(1954)の芹沢博士は、空想科学映画のなかであるとはいえ、それを実際にやってのけたのである。

佐藤が言うように科学者、芹沢大助は、無責任なのではない。むしろ、「何があっても科学研究を進めることは、善である」というような戦後民主主義の科学観のなかにある科学研究至上主義を批判的にとらえている(おそらくこの科学観は、監督の本多猪四郎の科学観を反映している)という点で60年代の科学批判の思想を先駆的に先取りしている側面があるのである。実際にこうした科学研究至上主義が問題にされ始めるのは、1968年の東大全共闘運動あたりからであるが、大衆向けの娯楽空想科学映画とはいえ、それは、それから15年近く前の『ゴジラ』(1954)において問題にされ

ていたのである。

おわりに

科学史家のトーマス・クーンは、ベーコンの科学という概念を提出した。

ベーコンとは17世紀英国で活躍したフランス・ベーコンのことで近代西欧のベーコンの科学は、実験科学を中心とした科学である。

自然科学というが、「自然」というよりは日常ではありえない非日常的な状態から導き出される側面をベーコンの科学は持っている。と言っても19世紀のベーコンの科学は、まだ許容範囲内であった。

しかし20世紀の原子核科学は、「不自然」「非自然」科学、「非日常的」科学、「作為的」「人為的」科学であり、ウルトラベーコンの科学という側面を持つものであり、人類の運命をも左右しかねない巨大な力を持っている。ゴジラはこのウルトラベーコンの科学に基づいたテクノロジーによって生み出されたとてもないモンスターである。

原子力発電をやってはならないのは、原子力テクノロジーが、「不自然」であり人体に害を与える放射性廃棄物を出すという不完全性を免れていないからである。

最後に、第五福竜丸が被曝した時の外務大臣・岡崎勝男氏に対する指摘で本稿を締めくくりたい。岡崎勝男は、吉田茂内閣の外務大臣であり第五福竜丸がビキニ環礁で1954年3月1日に被曝したとき「私たちはアメリカの水爆実験に協力する」と述べて多くの日本人の憤激を買っていた。岡崎は1937年、当時の南京の日本総領事に駐在して、それらの記録を東京の外務省に報告していた外交官の一人であった。岡崎は、戦後東京裁判に関連した国際検察局の尋問調書のなかで、南京安全区国際委員会からほとんど毎日のように報告がなされ、外務省出先機関は、その報告の概要を本省に打電し、報告そのものも本省に郵送したと述べている。岡崎は戦後になってから「懐かしき中国」(『文藝春秋』臨時増刊、1949年12月)という一文を書いて

いる。

戦前に英米を鬼畜と呼びアジアを英米の帝国主義から解放するというのが、大東亜戦争遂行のための大義名分であった。岡崎もまたこの大義名分にのっかり中国侵略に関与していた。戦前に鬼畜英米と言っていた人間が、戦後日本において対米従属の代表的人物となっている現実を私たちは目撃する。世界史上、これに類する転換はなかなか見つけることは難しいだろう。先述の占領史家、笹本征男氏は『米軍占領下の原爆調査 原爆被害国になった日本』(新幹社、1995)のなかでその問題を詳しく考察している。大石又七氏らを苦しめたのは、岡崎勝男に象徴される対米従属の外交であり、戦後日本の重要協定、日米行政協定(日米地位協定の前身)に調印したのも岡崎である。現在の日本においても基本的にはこのような対米従属の社会構造は変わっていない。

2021年には、大石又七氏が、そして2022年には宝田明氏がこの世を去った。第五福竜丸やゴジラにとっ

て重要な人物がいなくなってしまったのである。しかし、ゴジラvs正力松太郎+中曽根康弘+岡崎勝男+安倍晋三+岸田文雄+ホリエモン+十倉雅和+etc.という闘いは、まだまだ終わることはない。

(2023年9月7日・公開講演会)

筆者略歴(やまぐち・なおき)

1991年、東北大学理学部物理学科卒業、東北大学大学院修了。2003年から北京大学科学と社会研究センターに研究留学。2008年、北京日本大学術交流会を組織し北京で347回実施する。専門は、近代日本植民地科学史、近代日中科学史、現代中国科学技術社会論など。共著に『在中日本人108人のそれでも私たちが中国に住む理由』(阪急コミュニケーションズ、2013)、『日中関係は本当に最悪なのか―政治対立下の経済発信力』(日本僑報社、2014)など。

公開講演会記録

留用についての考察と体験

新宅久夫（会員）



①なぜ「留用」を取り上げたか？

まず自己紹介を致します。現在、関東日中平和友好会会長をしております。この会は戦後中国政府に留用され残留した人々の集りです。

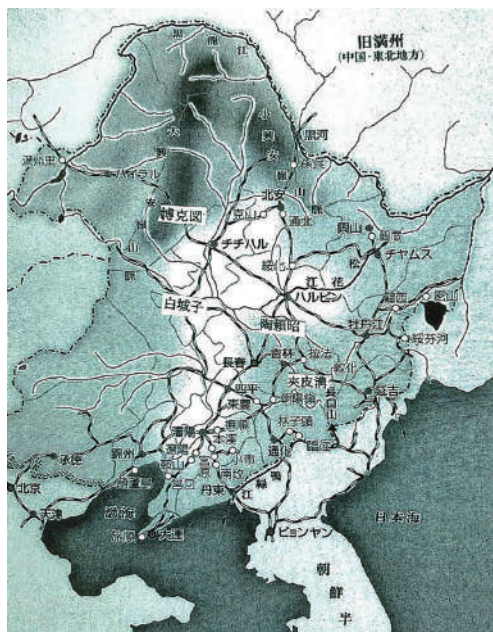
初代会長は戦前満州遼陽陸軍航空隊長の林弥一郎少佐で、テストパイロット養成の部隊でした。日本の敗戦後八路軍の林彪將軍の呼びかけに応じ、降伏して20数機の飛行機を分解して、馬車に積み込み国府軍の追撃を避けながら北滿の密山にたどり着き、中国最初の航空学校を開設しました。1期生からは王海空軍總司令官が誕生、北京天安門で毛沢東主席が新中国設立を宣言

した上空を編隊で飛びました。

実は本年4月コロナ禍が緩和され、4年ぶりに大連に行き、入境の際女性の係官にパスポートを提示したら、何時から日本人になったか？と聞かれ、一瞬戸惑いましたが、「私は長春で生まれてからずっと日本人です」と答えたら、不思議そうな顔をしたので、留用のことを知らない様子でしたので、簡単に説明しておきました。

NHKの番組「留用された日本人」として世間に紹介されましたが、中国事情を研究する関係者、大学の研究者は

資料が少ないうえ、大方の留用者はいなくなり、体験を証言する人がいないため、留用の事実が風化し忘れられることを心配して、今回記憶を頼って発表することにしました。



東北地方（旧満州）各地を転々と移動した



1947年6月ジャムスにて
私と新宅・中内家姉妹

第二〇八号
留用命令
茲留用 小荒井八十六 為本局員工希即知照
此令
中華民國三十五年八月十九日

副局長 呂正操
政治委員 郭洪濤 馬鈞 李富春 陳正人

證明書
氏名 小荒井八十六
住所 東北鐵路局長
陳雲
右者確實屬留用之工作人員更充許住用本局宅地
今後不論何人勿其騰房更希深加受護謹此證明之
此證
中華民國三十五年八月十九日
東北鐵路局長 陳雲
第十三班 沙曼屯區長
小荒井八十六 殿
留用下命遺達ニ関する件
貴殿本日留用者として決定、命令セラレタルニ
付通知いたします。

中国政府機関が出した「留用命令書」

②日本の敗戦と満州の実情

1945年8月

敗戦時旧満州には、邦人が120万人、関東軍が50万人いたが、奥地にいた満蒙開拓団員など、日ソ開戦の混乱で死亡・行方不明者 24万5000人、そのうち8万人の満蒙開拓者が死亡したと推定されている。

1946年4月、ソ連軍が進駐した全満州から、旅大地区を除き撤退した。代わりに八路軍が延安・河北から、新四軍は山東方面から旧満州方面に進駐したが、その後遅れて国府軍はアメリカの援護のもと、東北地方に進駐し、鉄道沿線の主要都市を占拠、空輸で兵站を満たしたが、籠城の末、精鋭部隊は降伏し、解放軍に編入されて解放軍の力が増強され、全国解放のスタートを切った。

1955年、厚生省引揚援護局が編纂した『続・引揚援護の記録』によると、ソ連管轄下の旅順・大連地区からの引揚船の中に、事前通達のない中共地区残留者が含まれており、その多くが病人・けが人・反共主義者であった

とし、残された人を次のように分類している。

- (一) 中共軍および政府機関行政の留用者
 - (二) 医療関係の留用者
 - (三) 炭鉱従事者
 - (四) 一般邦人
 - (五) 残留婦人および戦災孤児
- 残留者は約6万人と推定されていた。

③留用者の実態と留用に至る状況

1946年5月

前期引揚が始まり留用者の指名が聞かれるようになる。

留用とは中国語で文字通り、留めて使うという半ば強制で、戦後国共支配地区分断の中で中国側は各地の「日本人会」などを通じて、職業調査を行い必要に応じて「留用者」が生まれた。

国府軍支配地区の留用者は国府軍の敗退によって、1946年初めに釈放され、アメリカ軍の仲介で一時停戦して、北満から27万人、南満78万人、合計105万人が半年間で葫蘆島から驚異的なスピードで日本に送還された。



いわゆるGHQによる前期引揚である。中共支配地区インフラの維持と建設に日本人技術者が不可欠であったため、留用者を8～13年間中国各地に残留させ新中国建設に協力させた。

1949年10月新中国誕生が宣言されると、当時の瀋陽市人民政府の援助で、東北各地に分散していた日本人子弟を、瀋陽市の日本人小学校に併設した寄宿舎に集め、民族教育を行った。上級生であった私は寄宿生や通学生に興味があったので、非公式ながら、



親の職場や戦災孤児などの実態を調べた。不完全ながら聞き取った結果を分類すると、日本人技術者がいろいろな分野にいたことがわかった。

- (一) 鉄道関係者（旧満鉄の技術者）
- (二) 医療関係者（病院・製薬）
- (三) 冶金精錬・機械製造修理関係

- (四) 鞍山製鉄所・製紙パルプ関係・撫順・本溪湖炭鉱セメント製造
- (五) 大学・研究所・試験場（水産・農業）

- (六) 通信電話関係
- (七) 造幣・印刷関係
- (八) 発電所の維持管理・飛行場建設（ハルビン・太平洋港）

- (九) 軍用被服・製靴関係（軍用）
- (十) 映画・新聞放送関係者
- (十一) 関東陸軍航空学校関係者
- (十二) 戦災孤児・残留婦人など

戦後各地に「日本人会」や中国関係機関の要請で中国に残ることを余儀なくされた人が「留用者」のほとんどで、信念に基づいて自発的に残留した者はごく少数であった。

実際の中国からの後期引揚者（1953～1958年）は東舞鶴港の入港記録によると、3万2500人となっている。

④新中国の建国を支えた協力者

1946～1958年
1946年5月前期引揚が始まると、

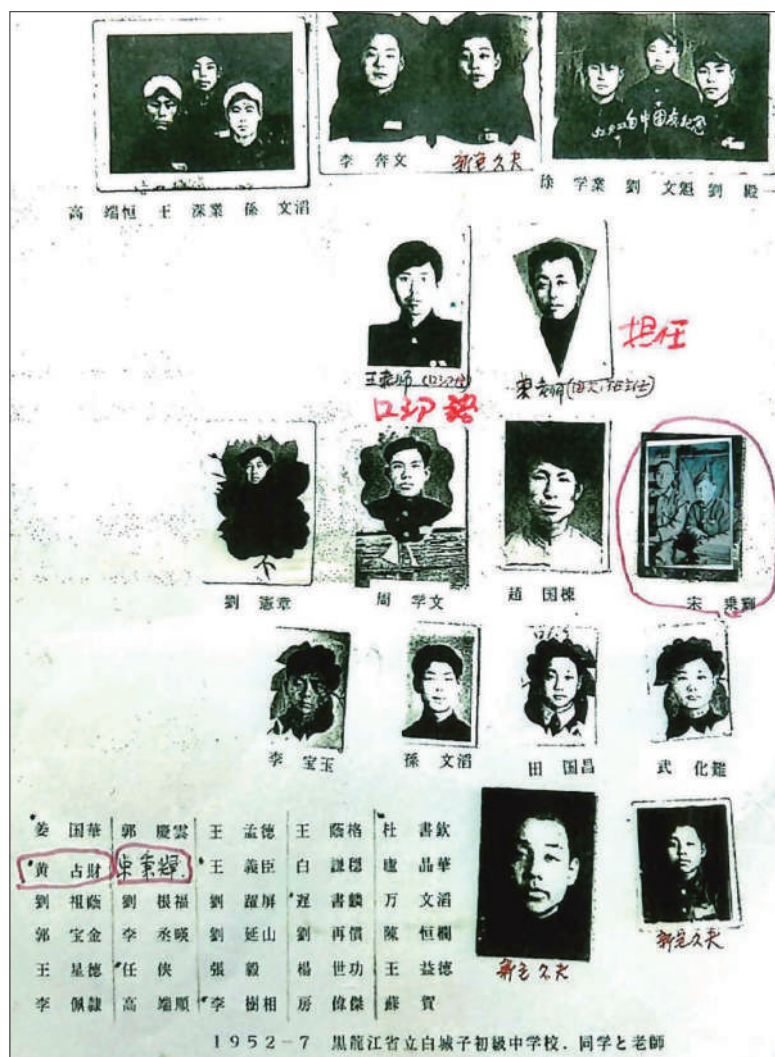
留用者たちは安全なジャムス方面に移



動させられた。ジャムスは東北民主聯軍の後方兵站基地で、多くの日本人が集結していた。日本人によって通貨「人民元」が作られた。兵站部には日本人を主体にした、数百人の自動車隊があつて、作戦車、指揮車などの上級幹部が乗る車には、安心して任せられる日本人が運転していた。

中国の資料によると、解放軍には医療従事者、担架隊、トラック運転手など、約8000人の日本人が参軍していた。なかには東北地方から南下して広東省まで8000キロメートルを徒歩で踏破した強者が多くいた。

ジャムスでの3回目の冬を過ごし、東北民主聯軍は増強され東北野戦軍と



白城子初級中学校の学友と先生

して、国府軍に大攻勢をかけ、さらに第四野戦軍と改称して、破竹の勢いで南下。起義（寝返り）によって、解放军に国府軍を編入しながら、強大な兵力になり、1949年10月1日北京において毛沢東が高らかに、新中国誕生を宣言した。解放军は大挙揚子江を渡



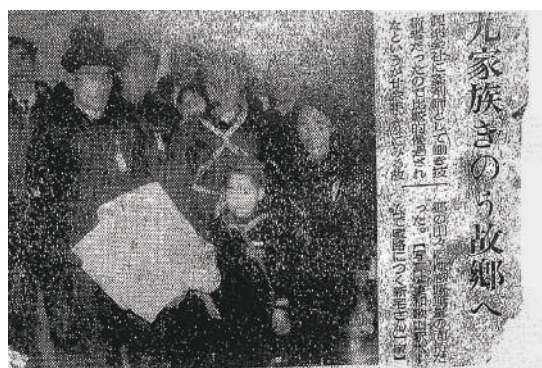
は日本社会に馴染めず、大挙して日本共産党に入党し、日共指導部に籍を置いて組合活動や、日中貿易促進会

留用者は中国で高く評価され、国際友人として優遇されたが、日本に帰国してからは就職が大変で、中国で思想教育を受け洗脳されたと偏見と差別を受け、赤い人間として敬遠され、困難を極めた。事実人の嫌う職業に就くこともしばしばであった。帰国した若者は日本社会に馴染めず、大挙して日本共産党に入党し、日共指導部に籍を置いて組合活動や、日中貿易促進会

⑤ 帰国後の留用者の動向・就職難・日中共産党の分断

1958～1960年

り敵なしの勢いで、海南島を解放し台湾を除き全中国解放を達成した。
③で紹介した通り、多くの留用者は後方の各分野において活躍した。



で主導的役割を果たした。
中国から特別の優遇を受け、日共御三家と言われた「羽賀通商、睦交易、進展実業」は友好商社仲間で羨望の的だった。1967年4月には北九州で、同年10月には名古屋で開催された中国商品展覧会の事務局は、日共が支配していて、日中共産党の政治路線の違いが露見する。事務局が中国側に不協力を表明したため、関係は悪化。来日していた中国代表団の怒りを買って、即刻事務局から日共関係者を排除し、それに代わる社会党系の国際貿易促進協会

に急遽運営を委託して、開催が危ぶまれた状態を脱却、見事成功に導いた。日中関係史上大事件であった。

そこで日中共産党の関係が完全に決裂、日共は中共派党員を大量除名し、新聞紙上に実名で公表した、その大部分は帰国した留用者たちであった。

中国側は日中貿易から日共系商社を排除した。反旗を翻した人たちは友好商社を設立して、中国側の支援を期待した。

日中共産党の関係は、31年後の2008年によりやく修復された。

⑥ 友好の懸け橋 日中友好と貿易に貢献 1961～1973年

友好貿易をつなぐ友好活動、実は日中貿易に関して言えば、1950年に新たな展開を迎えていた。3月、アメリカ国務省は対中貿易を許可する方針を決定し、商社が中国側に大豆や開澳炭を輸出する同意を取り付け、イギリス商社を仲立ちとして、香港ルートで貿易を再開した。このルートを使い「留用者」と家族との間の手紙のやり

取りも可能になり、安否が確認され留守家族は安堵した。

決定的に中国との道が閉ざされたのは、朝鮮戦争における中国義勇軍参戦の後で、報復措置として対中経済制裁のチンコムが発動された。

「留用者」の帰国後の生活は決して



黄綬褒章

恵まれず、語学を生かし日中間の懸け橋として活躍する者が多かった。

1958年、筆者は大学の推薦で内中国貿易要員として、十大商社の江商（後に兼松）に内定していたが、長崎国旗事件で内定を取り消された。急遽プリンス自動車に就職し日中貿易再開を待った。

1960年、当時日中関係が断絶状態の打開策として、「貿易三原則」（日中貿易は政府間協定・民間契約・個別の配慮による）が周恩来総理から提案されたことで日中間の経済交流が再開された。同時に「政治三原則」がだされ、（一）中国敵視政策を止める、（二）二つの中国を作る陰謀に加わらない、（三）日中両国の国交正常化を妨げない、という政経不可分の「政治三原則」が提示された。

1961年、中国は個別的な民間ベースの経済交流の再開を認め、友好商社を指定して、貿易業務を認める方式が確立し、貿易でつなぐ友好活動も盛んになった。

1963年、廖承志（L）と高碕達

之助（Ｔ）が署名し、日本と中華人民共和国との間で交わした「日中長期総合貿易に関する覚書」に基づき、両国間の正式な国交にないものの、互いの連絡事務所を設置し、政府保証の融資を利用して行われた半官半民的な貿易形態は、通称「ＬＴ貿易」と呼ばれた。友好貿易と合わせて貿易活動発展の出发点となった。

１９６６年、文化大革命が発動され約１０年の混乱が続き、貿易活動も停滞した。

１９６７年の北九州、名古屋の「中国展」を転機に、日関係者が日中貿易から排除され、日中貿易促進会に代わって、国際貿易促進協会が窓口になり、中国政府の支援を受けて、日中貿易は飛躍的に発展した。

１９７０年北京訪問中の覚書貿易交渉団に、周恩来四条件が提示された。

（一）南朝鮮・台湾と取引をしている会社とは取引をしない、（二）南朝鮮、台湾に投資している会社とは取引しない、（三）ベトナム・ラオス・カンボジアに対する米国の侵略戦争へ武器を

売る会社とは取引はできない、（四）日本における米系合併企業とは取引をしない。米国のベトナム侵略戦争に対し、中国は四条件で国際連帯を表明した。

１９７２年９月、田中角栄総理・周恩来による国交正常化により、多くの友好商社が、中国の配慮に頼りすぎて自助努力がなく、貿易業界から消えていった。

（２０２３年１２月２２日・公開講演会）

著者略歴（しんたく・ひさお）

１９３５年３月１５日 中国長春市に生まれる。

１９４４年３月 父が満鉄新京病院を辞め、ハルビンの軍事工場を仲間と立ち上げる。

１９４５年８月 日本の敗戦をハルビンで迎える。

１９４６年６月 中共軍に留用されジャムスに急遽移動。

１９４６年７月 国府軍の接近と内戦の一時停止で日本人の引き揚げが始まる。

１９４９年５月 中共軍の大攻勢で南下して瀋陽市に定住。

１９５０年１０月 朝鮮戦争勃発で白城子に疎開する。一時停戦で瀋陽白城子を往復する。

１９５３年３月 休戦で日本への帰国が始まる。当時高級中学三年生（高校）。

１９５９年３月 天理大学卒業で内定していた、王手商社「江商」（後の兼松）が長崎国旗事件を理由に内定を取り消しされた。

１９６１年２月 日中貿易再開まで、約３年をプリンス自動車に勤務する。
１９６１年３月 周恩来貿易三原則を受け入れ、香港経由で北京入り、友好貿易とＬＴ貿易に従事する。
爾来、生涯現役を目指し、駐在を含み訪中回数３３４回、滞在日数約４９００日を現在記録更新中。

公開講演会記録

令和六年「新年に抱いた漠然とした不安」

映画監督・元NHKディレクター 河邑厚徳



時代がバブルを迎えているようだ。

世界で戦争が続き、政治の劣化、自然環境への破壊などが続くが、日本の株価や不動産などの実態を反映しているとは思えないバーチャルな高揚感。一部企業は失われた30年を克服したとまで新聞は描いている。そんな新年を占う元日に能登半島地震が起こり、震度はマグニチュード7・6で、気象庁は大津波警報を出した。国土地理院によると輪島市が最大4メートル動く地殻変動が確認されたという。地震被害救援への初動が遅れて東日本大震災や熊本地震での教訓が十分生かされていないという批判がある。

翌日には同じような時刻に羽田空港

で日本航空の516便と滑走路にいた海上保安庁の航空機が衝突して炎上した。日航機には乗客367人と乗員12人合わせて379人が搭乗していた。機体は衝突後に激しい火災を起こし乗客14人が負傷しながら、乗務員の誘導により搭乗者全員が脱出した。一方の海保機には6人が搭乗しており衝突により5人が死亡し機長が重傷を負った。海保機は能登半島地震の救援のために新潟航空基地に向かおうとしていた。まさに逢魔の刻に日本海側と太平洋側で起きた二つの災害は、天災と人災の違いがあるが日本列島の裏と表が

暗合するような不安な一年の幕が開いた。

私は昨年『丸木位里 丸木俊 沖縄戦の図 全14部』という画家・丸木位里と俊夫妻が共同で描いた作品を時間軸に沿って見つめるドキュメンタリー映画を制作した。映画は2023年に完成し、「平和・協同ジャーナリスト基金」より大賞を受賞し、2023年度キネマ旬報文化映画部門ベスト・テンで第3位に選定され、ますます沖縄という日本最南端の島に関心が高まる時代の到来を痛感した。多くの沖縄をテーマにしたドキュメンタリーがある中で、この映画はアートによって沖縄

戦の全容を描くという企画意図が評価されたようだ。映像記録や証言とは異なる切り口で沖縄の置かれた過酷さの総体をとらえようとした企画であった。画家・丸木位里と俊は一貫して平和を願い原爆の図、アウシュビッツ、南京大虐殺などの戦争の悪と本質を描き続け、最晩年に沖縄戦に取り組んだ。明治以来、日本は戦争を繰り返した。本土の戦争体験は空襲や空爆によるものだったが、唯一沖縄だけは米軍が上陸して直接の戦火を交えた地上戦だった。鉄の嵐と呼ばれる猛烈な艦砲射撃と戦闘で住民の四分の一が戦死した。丸木夫妻は沖縄戦では日本側には写真も映像も資料も残されていないことにこの戦争の本質があると考えた。多くが戦死し爆撃と戦闘で何もかも失われ後世に伝える記録がないほどの地獄だった。二人は絵を描くために、沖縄に家を借りてアトリエとし、徹底的に体験者の証言を聞き、現場に足を運び、あらゆる文献に目を通した。そうして6年かけて目に見えるドキュメン

ト絵画を残した。絵からは沖縄の人々への愛おしさと想像を絶する戦争悪が見る人の心をとらえる。絵から人々の泣き声や諦念のつぶやきがずっと聞こえ、平和の重みを訴える作品が完成した。

沖縄戦は1945年に終わったが、戦後も一貫して沖縄に背負わせてきた負担、琉球諸島で着々と進む戦争準備など、沖縄戦は過去の歴史ではない。現在も島民の反対にもかかわらず辺野古では米軍基地が建設され、与那国島、石垣島や宮古島などに自衛隊基地が建設されミサイルの配備が着々と進んでいる。

正月の事件で改めて思い出すのが昨年の11月29日に屋久島沖に墜落したオースプレイの事故であった。乗組員8名が死亡したが原因は明らかではない。嘉手納基地に向かって飛行中で幸い住民には被害はなかったが、本島や近海で墜落したら大惨事が起きた可能性がある。昨年4月6日には宮古島沖で陸上自衛隊のヘリコプターが墜落し、乗務員10人が全員死亡している。日米両

国が琉球弧で軍事強化を進めていることと無縁ではない。

故安倍晋三首相が2021年12月1日に台湾で開かれたシンポジウムにオンライン参加し「台湾有事は日本有事であり、日米同盟の有事である」と発言している。軍事強化を国是とする岸田総理は23年から5年間の防衛費の総額を43兆円とするようにと指示した。それまでの中期防衛力整備計画が総額27兆4700億円であった事実を見れば5割以上増額し、日本の防衛予算は1・5倍に拡大した。

正月の気分に戻すと、平安な初夢とはならず小松左京の『日本沈没』を思い出した。刊行されたのは1973年だったので半世紀前の悪夢である。当時は終末思想、巨大地震、オカルトなどいわれのない不安を日本人は抱えていた。SF作家の小松左京は、日本海溝で起きた地殻変動で日本列島が壊滅するストーリーを書き上げた。日本海側と太平洋側がつながればどうなる。かつて存在していたパンゲア大陸のように日本列島が地球上から消滅すると

いう悪夢。小松左京は戦争世代で、一億玉碎とか本土決戦という熱病にかかっていった日本人に、勇ましいことを言うなら一度ぐらい国を失い、日本とは何かを考えてみたらとインタビュで答えている。

明治以来約80年は富国強兵の号令の下で、日清・日露・日中事変から太平洋戦争と戦争を続けてきた。敗戦後はお金とモノの豊かさを目標に、日米安保の傘のもとで平和であり続けてきた。その戦後も80年が過ぎた。80年+80年。今年大きなターニングポイントを迎え、日本は戦争をできる国へとその姿を変え始めている。日本沈没は戦争に近づくなという警鐘ではないだろうか。

悪夢が覚め希望がどこにあるのかを考えた。芸術には平和を作りだす力があるのではないか。人に戦争を呪わせる百千の理屈よりは数分の鑑賞で戦争のおろかさを教えてくれる。人は理屈だけではなく心で動く存在でもある。アートの力で改めて平和の重みを訴えることに私の希望がある。「沖縄戦の

図」からは、亡くなった子どもたち、女性たち、おじいやおばあの祈りとつぶやきが聞こえてくる。映画は、今後沖縄を知るために最初に接する映像となり、歴史を学び、市民の手で平和な未来を選択するよすがになってほしい。日本が沈没する前に、若者や子どもたちにも見てほしい。

(2024年2月1日・公開講演会)

筆者略歴(かわむら・あつのり)

1948年愛知県生まれ。東京大学法学部卒業後、1971年にNHK入局。

ETV特集・NHKスペシャルなどを中心に現代史、芸術、科学、宗教、環境などを切り口にノンフィクション番組を制作。現代の課題に独創的な方法論で切り込み、映像を生かして、広く理解できるように問題提起をしてきた。現在は映画を中心に制作を続けている。

映像作品に『鉛筆と銃 長倉洋海の眸』(2023年)、『丸木位里 丸木俊 沖縄戦の図 全14部』(20

23年)、『天地悠々 兜太・俳句の一本道』(2019年)、『笑う101歳×2笹本恒子 むのたけじ』(2016年)、『3D大津波 3・11 未来への記憶』(2015年)、『天のしずく 辰巳芳子 “いのちのスーパ”』(2012年) など。最新作の『丸木位里 丸木俊 沖縄戦の図 全14部』で2023年度 平和・協同ジャーナリスト基金より大賞受賞。2023年度キネマ旬報文化映画部門ベスト・テンの第3位となる。

会 員 彼 是

I T 難民のつぶやき

福島靖男（会員）

新型コロナウイルスが感染法上の

「5類」に移行したとはいえ、足掛け4年も続いた行動制限の余韻は容易に解消するとは思えませんが、会員諸氏におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。例えば、2020年1月の新型コロナウイルス感染症の感染が確認され、4月には特別措置法による緊急事態宣言が発出、経験したことのない行動制限が課され、私たちの日常生活や行動が大きく制限されました。国際善隣協会の活動も例にもれずほぼ停止状態となり、会員諸氏との交流の場は閉ざされ、先輩・同僚との歓談はおろかご不幸にも欠礼するありさまとなり慙愧に堪えませんでした。ようやく昨年5月にこの感染症の感染法上の位置付けが季節性インフルエンザと同じ扱いに緩和され、徐々に日常生活を取り戻しつつありますが、この間

さまざまな経験・体験をしました。

騒動の発端は2月に横浜港に入港したクルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス号」乗客の集団感染報道でしたが、緊急事態宣言による「ソーシャルディスタンス」「3密回避」「うがい・手洗い」など感染予防の行動が奨励されました。私も品薄になったマスクの調達にドラッグストアを巡ったり、ワクチン接種の予約に電話をかけまくったりと非日常を経験しました。その後もコロナウイルスは数次にわたり感染拡大を繰り返し、ワクチンの接種も7回を数えましたが、完全な終息には至っていないようです。この騒動で日常行動が大きく変わりました。「リモートワーク」「オンライン授業」などが奨励され、人が集まる「飲食店」「劇場」などは営業を停止したり閑古鳥が鳴きましたが、最も影響

を受けたのは学校教育ではないでしょうか。政府の全国小・中学校への臨時休校要請などもありましたが、感染予防のため学校での授業にオンライン授業が取り入れられ、学習ツールとしてタブレット端末の利用が普及しました。

特に心配なのは義務教育世代への影響でしょうか。義務教育の小・中学校9年間は座学だけでなく同世代とのコミュニケーションや教員との応答を通して、人格の形成や社会生活の仕組みを習得することも大きな目的のはずです。それでなくとも、昨今は知育教育が前面に押し出され同世代との交流が疎かになっていきます。世代には時代背景により象徴的な命名がなされておりますが、古くは団塊の世代、最近ではミレニアム世代・Z世代などがあるようですが、コロナ世代は成人するころにはなんと呼ばれるのでしょうか。

もう一つ、この間の大事件に触れないわけにはゆきません。2022年2月に勃発した、ロシアによるウクライナ侵攻です。ロシアは「特別軍事作戦」と称していますが、明らかに「戦争」

です。なぜ、この時代にロシアは武力による現状変更を試みるのか私の理解を超えますが、その戦争は現在も続いております。軍事大国ロシアに対しウクライナにはアメリカを始めEU各国が軍事支援をしており、ロシア対西欧の代理戦争の様相を呈しています。まさか、ロシアが冷戦終結後の西欧中心の世界秩序の変更を目指しているとも思えません。中国や北朝鮮の対応を見ますとあながち空論でもなさそうです。戦争の実情は連日メディアを賑わせていますが、不思議なのはウクライナが一方的に攻撃され、ロシア領土への反撃が見られないことです。何はともあれ、どういう形でこの戦争が終結するのかは予断を許しませんが、ただ、第三次世界大戦に拡大しないことを願うのみです。

とここで身近な問題で恐縮ですが、皆さんはマイナンバーカードの取得をどうされていますか。この制度は行政の効率化をお題目に2016年に発足したわけですが、カードの取得率が伸び悩んでいました。私も特に必要を感じませんでしたので放置していましたが、政府はカードの取得促進のため一昨年からカード取得者に2万円分のポイントを付与するキャンペーンを大々的に開始しました。行政からはカード取得要請の折り込み広告やダイレクトメールが頻繁に届くようになり、違和感はありませんでしたがいずれ申請しなければならぬ今うちのことということで、2万円のマイナポイント付与に引かれ申請・取得することにしました。

そこで、はたと困ったのは私のモバイル環境はガラケーに止まりスマホの環境にないことです。届いた申請書類には電子マネー・QRコード・電子決済など耳慣れない述語が並んでおり何度読んでも申請の手順が理解できません。しかたなく市役所のサポートセンターの助力を仰ぎ、ようやく申請にこぎつけました。2万ポイントプラス2万円のチャージで無事4万円分の電子マネーをゲットできました。そこで、なぜ私はデジタル化に乗り遅れてしまったのかをつらつら考えてみました。

私は、前の東京オリピックのころメディアの世論調査機関に就職しましたが、そのとき職場にはすでにIBMの電子計算機が導入されており、データの統計処理に活躍していました。今思えばオモチャみたいなシステムですが、当時は最先端のデジタル機器で24時間体制で稼働していました。コンピュータの性能はトランジスタの細密化により半導体の性能は日進月歩で向上し、IBMも360、370と次々に上位機種を発表、追われるように職場も最新型のコンピュータ導入に走りました。当時のシステムはホストコンピュータと呼ばれる大型機で部屋を一つ占拠し、CPU（中央演算装置）を中心に各ユニットは直径20センチはあろうかという太い配線で結ばれており、コンピュータ室は事務所とは別電源が引かれ、発熱を冷やすため常時クーラーが稼働していました。CPUの中身は初期の集積回路（IC）で構成され、実に美しい幾何学模様で配線されているのには感銘を受けました。私が担当したのはアッセンブラーという機械語に近い言語を使ったアプリケーションプログラ

ムの作成でしたが、プログラムのバグを探すため厚さ20センチはあろうかというダンプリストを解読するため、日夜0と1のデジタルの世界に没頭していました。その後、当時の最新鋭機IBM370システムの導入を担当、日本IBMの六本木本社のシステムを使いプログラムのテストランを繰り返し、70年代の初めにシステムが無事動き出したところで、コンピュータから離れることになりました。

その後コンピュータの集積回路は半導体の極小化によりさらに高容量・高速化を実現、処理能力は飛躍的に伸長し、現在もその進化は止まるところを知らないようです。このように、私は当時デジタルの申し子だったわけですが、今ではモバイルはガラケーにたより、パソコンはワープロ代わりの利用に留まっています。つらつら思い出すには、まずあの巨大なホストコンピュータの複雑な配線と瞬時でも給電が途絶えるとデータが毀損すると教えられた原体験、どうしても家庭電源にプラグを差し込むだけで稼働するパソコン

の性能にはなじめないのです。もう一つはパソコンの操作に論理性を認められないことです。パソコンの仕組みはわかりませんが、フローチャートを作成し数千ステップのプログラムを組み、試行錯誤を繰り返した身としてはパソコンの操作は論理性に欠け、単なる慣れにしかすぎないように思えます。私はもちろんゲーム世代ではありませんから、キーボード操作には慣れていませんし、知識にも乏しいわけですが、何か姿の见えない電子機器によってコントロールされているような違和感をおぼえます。

このたびはマイナンバーカードの申請で手間どりましたが、アナログ世代からすると現在のデジタル世界に一抹の不安を感じます。イギリスの郵便局の経理システムのプログラムミスに見られるように、利用者にとってプログラムの中身はブラックボックスになっており、今はやりのチャットGPTにしてもどのようなアルゴリズムで作られているかは定かではありません。電子機器の利便性を否定はしませんが、

少なくともどんな目的で作られ、私たちにどんな影響を与えるかはきちんと押さえておきたいものです。

追記…この稿を執筆中の正月に能登地方でM7・6の大きな地震が起きました。200人以上の方が犠牲になり、家屋や道路など多くのインフラが損傷を受けました。これからの復興には多くの時間がかかると思います。お悔やみを申し上げると同時に早期の再建をお祈り申し上げます。

ところで、2016年の熊本地震のあと、私は本誌のコラムに、日本には2000か所ほどの活断層があり、もし活断層が2000年に1回ずれるとすると毎年、2万年に1回なら10年に1度日本のどこかで大揺れするのではと書きましたが、阪神・淡路、東日本、熊本とその通りになってしまいました。衛星写真の日本列島を見れば九州・四国・紀伊半島を東西に走る中央構造線、本州中央部を南北に縦断する糸魚川・静岡構造線（フォッサマグナ）など皺だらけです。いくつものプレートが重なり合う日本列島。気を付けましょう。

ようよう
陶々俳壇

会
句
結
果
2023年11月

兼題「黒」

馬場由紀子

地球儀を廻し旅する秋思かな

大内善一

◎正子

旅に出たいと思いつつも、出られないので、地球儀を廻して旅に思いを馳せる。それにしても戦火の絶えない地球である。

○明良

海外勤務が多かった私ですが最近地球儀ならずグーグルを開いて美しい写真を見て喜んでいます。いつでも行けると思っているの観光地をパスしたことを反省する頃です。

○二三四

秋の夜長、地球儀を回しながら、かつて行った国を数え、行きたかった国への想いを巡らせる。これもまた素敵な旅です。

○紅朽

「ものあわれ秋こそまれ」と記されるように、秋のしみじみとした情趣とどこかこないものの寂しさを、かつて旅した国々を地球儀を見ながら思い出しているのだろ。

久々に新酒を上げて師を訪ね

〃

◎正子

良い景が浮かびます。師もお喜びでしょう。切れが欲しかった。

○由紀子

秋うらら銀輪の娘の笑い声

松島二三四

◎明良

若い頃に見た映画を思い出しました。土手の道、河原、緑、セーラー服、銀輪と老いても血がわたります。

銀杏散る腕組みてゆく共白髪

〃

○明良

照れくさく未だに腕を組めない身には羨ましい。もっとも組んでもくれませんが。

◎正子

「銀杏散る」の寂しさを黄色の絨毯に変える温かみのある景です。

○紅朽

白髪の高齢の夫婦が腕を組み歩む様子は、

○善一

黄金色の銀杏落ち葉が散る様とよく合う。双方ともに充実した生涯を全うする晩年にあるからであろ。

黒焦げの鍋底洗う夜寒かな

日野正子

◎由紀子

焦がしてしまった鍋を洗うのは大変。夜寒がいつそう焦燥感を増します。

○明良

ガスコンロとなりもはや鍋を焦がすことの少ないこの頃ですが、焦がした魚焼きを洗うのに苦労しています。

○二三四

囲炉裏や竈で煮炊きしていた頃の、煤で汚れた鍋を想像しました。豆でも炊いたのでしようか。冷えが忍び寄る夜、焦がしてしまった鍋底をゴンゴンと洗うあかぎれの手まで見えるよつです。

○紅朽

なべ底の焦げを洗つわびしさが余計に寒さを覚えさせられる。

良夜なり金木犀の香庭に満つ

〃

◎紅朽

満月の明るい夜、秋の訪れを知らせるかのよう。どこからともなく漂う甘い香り。晴れた日よりも雲が多く湿度が高めのほうが香りが感じやすいといわれている。この日はおそろしく朝方は雨が降り、午前中は曇りや雨で午後からは日が差し、夜は晴れたのであろうか。月明りの庭園の景が浮かぶ。

澄む水に樹林の影と錦鯉

橋本紅朽

◎正堂

澄んだ小川に錦鯉が群れて泳いでいる川の周囲が映っている様はくみかけるものだ。美しい景。色のコントラストが良い。

◎正子

碧天や紅葉に染まるハケ岳

〃

○二三四

高く澄み渡った秋空と紅葉の鮮やかな対比。稜線もくっきり、まさに一幅の絵のようです。

○善一

◎由紀子

壮大な中に澄んだ空と紅葉のコントラストが素敵。

黒い雲やがて降り出す峠越え

伊藤正堂

◎正子

一幅の画のような景色が見えてきます。峠越えて雨が降り出したら、さぞ大変でしょう。

○紅朽

黒門に弾痕残る上野かな

〃

◎善一

黒豆を昔美味しく煮た日あり

上野京

○明良

黒豆を艶やかにおいしく煮るには根気と注意がいるのですが、寄る年波ですか。身体は衰えは如何ともし難いが、たぐさんの思い出に支えられている。

○由紀子

七五三孫の名を書く黒々と

瀬崎明良

○二三四

達筆なじいじの出番？ たつぷりと墨を含ませた筆を堂々と走らせる姿が見えるよつです。

○由紀子

お祝いの袋にお孫さんの名前を書いているのかな。

わが夢も秋風匂う夕暮れか

〃

○紅朽

私のことのように。秋風と夕暮れが寂しさを醸し出す。

黒文字の屋号堂々新走

馬場由紀子

◎二三四

地方の造り酒屋と見ました。新酒が仕上がったことを示す杉玉が軒下下げられ、見上げれば、黒々と太い文字で書かれた屋号。何代も続き地元で愛される銘酒、その出来がよいことを人々が喜ぶ表情まで見えるよつです。兼題「黒」の使い方が絶妙、漢字の多用も重厚な印象を与えます。

◎善一

何代か続く老舗の造酒屋かと連想した。その店先には新しい杉玉が飾られ、黒文字の堂々たる屋号が書かれている。さぞかし美味しい新走ができたのかと思った次第である。句の調子がよく、力強さを感じる。

◎正子

*旧かな、新かな、作者の意図に任せる。

中国

ウキウキシキ

編・訳 上松玲子

採用候補者公示をめくり

北京の中国地質大学水資源環境学院は1月18日から1月24日まで、2024年度教員採用一次試験の合格者8名を公示した際、同時にうち1名は「大学の管理職の息子」であること、2名は「学院の指導者の学生」であることを公表した。この公表の目的についてインターネット上で激しい議論が巻き起こっている。

近年、党や政府機関、事業単位、国営企業では採用情報の公開を推進しており、採用

候補者と指導者や幹部との親族関係を明らかにするのは初めてのことでない。また、関係法令でこれらの機関では夫婦関係、血縁関係、近しい親族関係、三代以内の傍系などが直接的な上司と部下の関係になることを禁じている。

中国人民大学行政学院の馬良教授は、学校側がそうした規定に注意を払い、選考への親族などの干渉を排除しようとしていることの現れだとし、「大学では比較的起こりやすい『近親繁殖』の防止と清潔で公正な雇用システムの促進に役立つ」と語った。また、大学関係者との関係性は個人のプライバシーではなく、公表にあたっては当事者の承認があったはずだから個人情報漏洩にならないと説明。

21世紀教育研究所の熊所長は、採用側は積極的に情報公開し社会や国民の監督に委ねるべきであり、社会や国民は

公開を奨励し、その権利を活用して公正な競争、就職を促進すべきであると述べた。

『光明ネット』2024年1月28日

不正計量との闘い

先日とある動画が公開された。浙江省杭州市のある金を取り扱う店に78グラムの金を持ち込んだところ、その店のデジタルスケールでは62グラムと表示されたのだ。通報で警察と監督局の担当者が現場に駆け付けたところ、不思議なことに77グラム強に戻ったという内容だ。当局の調べでスケールは不合格品であり、かつ不正な改造がなされていたと判明、スケールの没収と2万2千円の罰金が科せられた。さらに店主は動画作者のスケールと金のネックレスを損壊したかどで6日間拘留の行政処分となった。

スケールの不正な細工はしつこい病のように何度も禁止されながら依然蔓延している。それ

は恐らく監督が不十分であることと、罰則が軽いためだろう。新たな手を考えなければ問題はなくならない。さらに不正に使用される操作可能な天秤（原文「鬼秤」）を使う側だけでなく、それを作って売りさばく者たちにもメスを入れるべきである。

「鬼秤」はパスワードが設定されており、リモート操作で瞬時に変えられる。売りたい客が入店すると8割の測定値を出すようにし、調査が入ると正しく計測できるスケールに戻していたわけだ。これを使用する以上に社会に有害なのは、生産することだ。根源を絶たなければ問題の解決にはつながらない。インターネットでパスワード付き、使い方説明動画付きのスケールとして売られているものは「鬼秤」である可能性が高く、こうしたところから手掛かりをたどることはそう難しくないだろう。

『南方週末』2024年2月7日

第一学歴差別とは

国の高等教育推進戦略（985戦略と211戦略）に指定された大学の修士課程を修了したのに、学士課程が指定大学でないという理由で就職試験に落ちる例がある。一部企業がこの大学院前の学歴「第一学歴」を採用基準にする傾向は現在でも続く。

何社もの面接を受けながら採用通知がもらえない高さんも悩みの種は「第一学歴」だ。このところ第一学歴差別問題が注目を浴びている。「3年も名門大学院で頑張ったのに落とされた。まるで前科のように一生つきまとうのか」という書き込みがネットを賑わす。

教育部は2021年に、学歴は通常、最高または最終の学歴を指すと公式に表明、国家教育部門の関連政策や文書には「第一学歴」という概念はない。しかし取材では、

実際の採用現場で、今も「第一学歴」が採用の「閾値」として利用されている現状が見えてきた。

高さんは、四川省の第二期募集大学で学士号を取得した。どちらの国家戦略でも指定されていない大学は「双非（どちらでもない）」大学とも呼ばれる。そこを卒業し指定大学の大学院に入学を許可された大学院生は「反撃者」と呼ばれる。これで名門大学の大学院生として就職に有利なはずだと思っていた彼女にとって、第一学歴差別は予想外だった。就職説明会の受付では担当者「双非」の二文字を高さんの経歴書に書き込む。面接官に卒業大学を聞かれ答える

は終了したと告げられた高さんは、「第一学歴を重視しない会社もあるかと思っていたが、結局この『呪い』から逃れられなかった」と語った。

陳さんも同様で、どこに応募書類を送っても音沙汰がなく、次第に自信を失っていった。友達に企業の事情を探ってもらうと、志望先は大学も大学院も指定大学である学生しか採用しないということだった。その他の大学の出身者は無視されたのだ。

陳さんは多くの企業がその基準を募集要項に明記せず、見えない壁を作っていることに気づいた。人材業界関係者や企業の採用担当者によれば、業界、職種、採用ルートにもよるが、優秀な大学院教育を受けたとしても、職務経験が豊富でも、平均的な大学卒の場合、たとえ一次面接までこぎつけてもその先はより高い学歴の志願者との競合の中

で強い印象を残すことはできず採用されるのは難しい場合が多いという。また、近年求職者の学歴レベルが上がり続けていて、あるときは一つのポストに応募した人の8割が修士だったということもあるそうで、その中での選抜となれば第一学歴がものをいう。

さらに学歴フィルターは応募書類の山を前に採用コストを抑える選考方法だと企業に認識されている。

法律では仕事の選択において民族、人種、性別、宗教的信念などの違いで差別されないことを規定しているが、第一学歴には規定がなく、立法や通達で第一学歴による差別を撤廃する努力が必要だ。

さらに、安易で画一的な線引きは、人材とポストのミスマッチにつながり、企業側にも不利益をもたらすと、暨南大学の王主任は指摘する。

（『工人日報』2024年2月22日）



◆令和5年度第11回理事会の議題（2月15日開催）

・確認事項

1月18日に開催された第10回理事会の議事録（案）が確認された。

・協議事項

- ①「令和6年度事業計画（案）」
「令和6年度予算（案）」について説明があり、次回3月の理事会で審議、決定することとした。
- ②来年度理事候補者の推薦・選出について意見交換を行った。

・報告事項

- ①委員会報告（定例報告）
 - ②事務局報告
- 令和5年度の事業報告の作成を各委員会に要請した。

（事務局長 竹前栄男）

同好会だより

〈俳句会〉

毎月第2水曜日午後1時から、オンライン（Zoom）での俳句会を開催しています。

ます。

俳句会の進め方は、前月末までに兼題および当季雑詠から5句を投句していただき、集まった投句から各自が7句選句をし、そのうちの1句を特選としてコメントもいただいています。選句が集まって俳句会当日を迎え、選句した理由や作者の意図などを披露しあいます。馬場田紀子先生のご指導はわかりやすく和気あいあいとしています。

未経験者も大歓迎ですので、興味のある方は事務局までご連絡ください。

〈謡曲会〉

松本千俊先生のお稽古は一人ずつの個人指導です。

未経験者も大歓迎ですので、興味のある方は事務局までご連絡ください。

〈二石会〉

囲碁の同好会ですが、メンバーの不足で休会中です。

未経験者も大歓迎ですので、興味のある方は事務局までご連絡ください。

7階会員談話室には、簡易な囲碁盤や将棋盤などが置いてありますので、会員同志の交流にご利用ください。

〈書道同好会〉

指導者不在とメンバー不足で休会中です。

未経験者も大歓迎ですので、興味のある方は事務局までご連絡ください。硯や筆、半紙なども在庫がありますので、自習などにご利用ください。

みんなの写真館

権現堂桜堤

（表紙）

関東有数の桜の名所である権現堂桜堤（埼玉県幸手市）は、天正4年（1576年）頃に利根川水系の権現堂川（昭和8年に廃川）の堤防として築かれたといわれている。約6kmにわたって3000本の桜があった。終戦前後には燃料とするためほとんどが伐採されたが、昭和24（1949）年におよそ3000本が堤防約1kmにわたって植え直され、現在は約1000本のソメイヨシノが咲き誇る。昭和63（1988）年に作付けされた堤の周辺の菜の花とのコントラストが見事で、黄色い菜の花の絨毯、桜の薄ピンク、空の青が独特な美しい風景を作り出している。去年、ここを紹介するテレビ番組を見て、友達と花見に訪れた。

（姜晋如）

富士山を見ながらの往来あれこれ

（表4上下）

大宮区三橋という所に住み始めたある日、ふと「島根氷川神社」の文字が目にとまり、こぢんまりしたかなり古いお社に詣でる。鳥居から振り返ると見事な夕日に小さく富士山が見えた。三橋から「鴨川」を挟んで、「島根町」になることを知った。（表4上）

渋谷宇田川町のとあるビルが、現在の職場だ。夕暮れが眼下の松濤の街を覆っているが、12階の給湯室から富士山が望める。（表4下）

あちらこちらから富士山が見える。埼京線「中浦和」駅ホームからは、見事な富士山が見えるので、今朝も埼京線に乗る。どうにもならないことを相談でもするかのように、まだ真っ白なたたずまいを見上げながら、なぐさめられたり、清められたり…。

（原田克子）

2024年4月の行事予定

- 4日（木） 14：00 公開 第1回対面&オンライン講演会
「『日中交流の歴史を訪ねて—書画詩文に見える日中交流の精神世界—』展示会を紹介しつつ」
井出亜夫氏（フォーカス・ワン代表理事、当会会員）
- 9日（火） 14：00 謡曲会（松木千俊先生お稽古）
- 10日（水） 13：00 俳句会
兼題「花」及び当季雑詠から5句を投句（3月末までに）
- 11日（木） 14：00 公開 第2回対面&オンライン講演会
「プーチン政権の現況とウクライナ侵攻の展望」
中澤孝之氏（ジャーナリスト、ロシア・ソ連研究家）
- 19日（金） 14：00 公開【21世紀アジア塾】〈旧【善隣中国塾】〉（対面のみ）
世話人：伊大知重男氏・村瀬廣氏（当会会員）
- 25日（木） 14：00 公開 第3回対面&オンライン講演会
「変わるベトナム経済と日越経済関係」
藤田麻衣氏（日本貿易振興機構アジア経済研究所）

4月の会議予定

2日（火） 13：00	国際交流委員会	18日（木） 13：00	理事会（第1回）
8日（月） 14：30	講演委員会（Zoom）	18日（木） 15：30	広報委員会
9日（火） 13：00	環境委員会	24日（水） 13：00	東北委員会
10日（水） 13：00	財政委員会	26日（金） 13：00	諮問会（第1回）

※下線は通常日程に変更あり。

【5月初めの講演会予定】

- 9日（木） 14：00 公開 第4回対面&オンライン講演会
「『世界議会—21世紀の世界統治と民主制』（翻訳出版予定）の紹介」
横江信義氏（元通産研究所次長兼官房審議官、IEA 石油市場緊急対策局長）

みんなの 写真館



INTERNATIONAL GOOD NEIGHBORHOOD ASSOCIATION (IGNA)
<https://www.kokusaizenrin.com>

ISSN 0386-1034
二〇二四年（令和六年）四月一日・毎月一日発行

「善隣」第五四六号（通巻八一三）

発行所

〒一〇五〇〇〇四 東京都港区新橋一五五
一般社団法人 国際善隣協会
電話 〇三三五七三三〇五（番代表）